

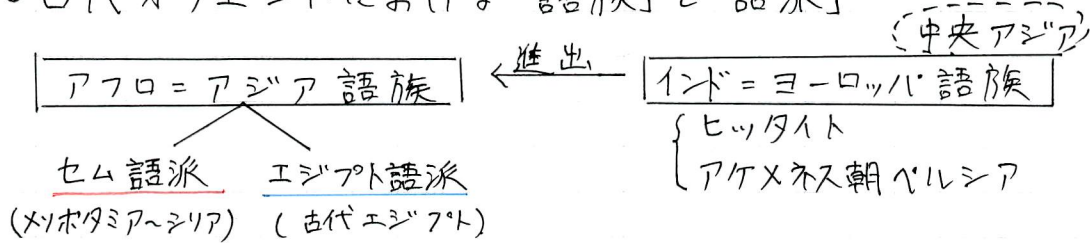
5/18 古代オリエントの諸民族

cf.) タペストリー-p.55

テーマ

オリエント文明の富を求めて地域世界に進出した諸民族の動向をまとめよう。

○ 古代オリエントにおける「言語族」と「語派」



○ 前二千年紀までのオリエント世界

① 前三千年紀：都市国家の形成と統一

- ・ メソポタミア：シュメール人の都市国家
→ アッカド人による統一（アッカド王国）
- ・ エジプト：ノモスの分立
→ メネス王による統一，統一王朝期へ

Point

古代オリエントの灌漑農業を支えた **神権政治**

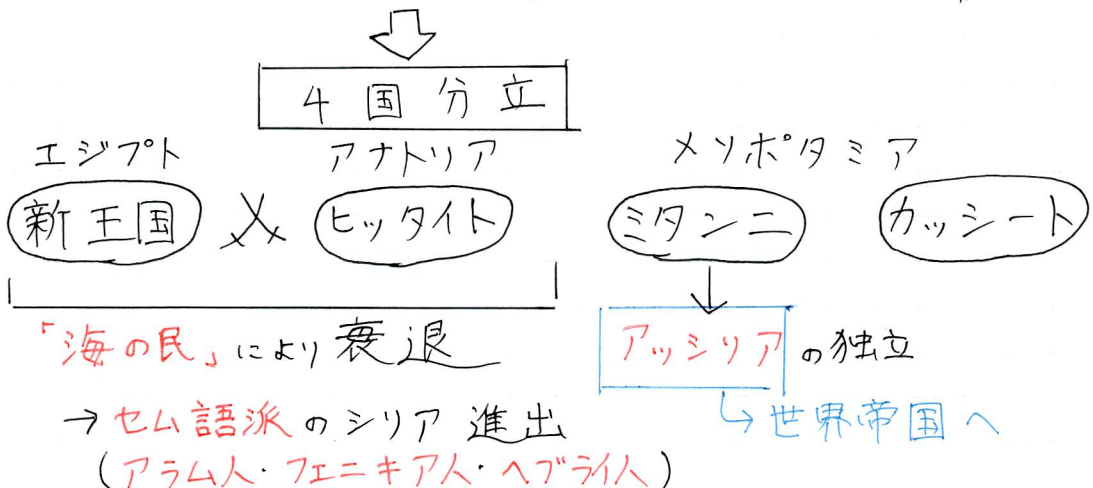
… **多神教**・都市神信仰

(メソ) - 王 = 神の代理人 (= 神宮)

(エジ) - 王 = 生ける神

② 前二千年紀：セム語派の活躍と4国分立

- ・ メソポタミア：アムル人による再統一（古バビロニア王国）
- ・ エジプト：ヒクソスの侵入と支配（第15王朝）



5/18 古代オリエントの諸民族

(練習)

○ ヌソポタミアの神権政治

(問) <タペストリー p.55 ヒストリーシアター>

ハンムラビ法典石碑に王と神が
並んでいる理由は?

Point

ヌソポタミア神権政治の特徴

王 = 神の代理人

→ ハンムラビ法典 = 神の法

つまり... 法典に神の権威を付与して
正統性を示す。